

## 我ら宇内に雄飛し その晩晴を尊ぶ

●浦高百年の森／令和3年度第1回現地活動を終えて  
 今日「浦高百年の森／令和3年度第1回現地活動(下刈等)」でした。昨年からの新型コロナ禍の影響もあり、今回も浦高等からのバスが出ず、参加舎は現地集合となったため、車または徒歩での参加となりました。春日部地区浦高会からは、鳥井隆一郎さん(11回、百年の森運営委員)、石田知己さん(16回、浦高百年の森皆勤賞のお一人)と私が車で、石塚善幸さん(13回、越谷市在住)が秩父鉄道波久礼駅から徒歩でと4名が参加しました。

午前10時に体験の森にて開会式が行われ、玉熊英一・百年の森運営委員長(26回)からのご挨拶「百年の森も16年が経ち、こんなに立派に育っています。今日はバスを出すことが出来ませんでした、17名の参加をいただくことができました。コロナにめげずありがとうございます。これだけの人数ですので、体験の森と作業道路の刈り払い程度しかできませんが、よろしくお願いたします」。



10時10分からは2藩に別れて作業になりました。私は大鎌を使った作業道路の刈り払いを担当しました。



梅雨が明け日なたでは厳しい暑さ、木陰でホッとしながら約50分新を流しました。

12時に体験の森に戻り昼食、事務局が用意してくれた甘いスイカ、みずみずしいキュウリ、そして熟したトマトをいただき水分補給もしっかりとしました。久々のおむすびがとても美味しく感じられました。



【写真：右から石塚さん、鳥井さん、石田さん、冷水宣雄さん(11回、百年の森皆勤賞)、香田】



私たち浦高25回有志一同が、2016年11月20日に植栽した「トチノキ」も立派に育っています。「我ら宇内に雄飛し その晩晴を尊ぶ」

ぶ」の看板も健在。

### ◆「浦高百年の森」づくり事業の主旨

浦高が掲げる「尚文昌武(文を尊び、武を盛んにする)」という文武両道の伝統に、「環境」という新しい伝統を加える。人間のエネルギー源である緑の森を、今後百年余の同窓生が、世代を超えて受け継ぎ育てていく。

### ◆目的と事業

「夕べにうたふ荒川の水万歳の声高し」と校歌に謳われている埼玉の母なる川・荒川上流の森を再生し、郷土の環境保全を図る。寄居町風布の民有林5haを借り、有用な広葉樹林を残しながら、針葉樹・広葉樹を植栽して、森の再生を目指す。植林や植生観察などを通し、森の大切さ、森を育てることの苦労と喜びを経験して行く。毎年、年2回の作業を、OBを中心に生徒、PTA、家族等がボランティア活動で行なう。

◇ ◇ 短い時間でしたが、その目的に基づき作業することができました。次は11月14日(日)です。